

第 362 回静岡エフエム放送番組審議会議事録

1. 日 時 在宅聴取による遠隔開催
2. 番組聴取合評 [番組名] ハットピンレディオ
[放送日時] 令和 2 年 5 月 24 日(日) 5:00~5:55
[出演者] 青木慶則、キンカ、ウイズアヨオン
3. 出席者 [委員] 委員長 木宮敬信 副委員長 角田哲康 委員 小野晃司
委員 山本りさ 委員 服部乃利子 委員 加藤裕治
4. 番組審議
[番組名] ハットピンレディオ
[放送日時] 令和 2 年 5 月 24 日(日) 5:00~5:55
[出演者] 青木慶則、キンカ、ウイズアヨオン

[聴取・合評での主な意見]

小野委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

番組で紹介した曲を SNS でプレイリストを掲載するなど、事前の準備も感じるが、事後の情報発信も丁寧。オウンドメディアの中にラジオ番組を位置づけられる。

●担当パーソナリティについて

夫婦の掛け合いとして馴染める。会話のペースも息が合っている。自然体。

●良かったと感じた点と、改善の必要があったと感じた点

ミュージシャンの経験と感性がベースになった世界観をお互いが気楽に会話する雰囲気がいい。今後は音楽を中心に旅や食などテーマが多面的に展開していけば興味深い番組になるのではないかと。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

女性が自分のことを「ワシ」という方を久々に聞いた。個性であると信じるが、違和感ある。

角田副委員長

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

・「家族ならではの・・・」の視点という意味では、このコロナ時期の家庭ネタではあった。しかし「ハツとしてピン」とくる話題提供があったかという点、それは今回に限って言えば、全くなかった。延々と一日の生活を振り返る話であったが、聴き続ける忍耐がかなり必要であった。朝の話を聴いただけで、ほぼその後の展開が想像できる構成だった。「振り返り」型のトーク構成では、余程共感する話題か新鮮な知的刺激・好奇心に訴える話題を持ってこない、長続きするのだろうか心配になってしまった。

・前回の審議会のシートでも触れたが、「radiko ありき」となり過ぎ、汎用性が強すぎるのではないだろうか。リアルタイムで日曜日の早朝に聴く人が少ないのは致し方ないとしても、全く日曜日の早朝の爽やかさなど「時間感」が浮き上がってこないのは残念であった(今回の様な一日を辿る「時間」の意味ではない。)たとえ radiko で違う時間帯に聴くにしても、番組の個性として伝えるべきファクターが欠如している感がある。どの曜日のどの時間帯の番組なのか。これもリスナーにとって訴求力のあることだと思う。

・番組を聴いて、楽しくなる様な、少なくとも休日を楽しみ過ぎてみたくなる様な(設定が日曜日の早朝ですから)話題構成であれば、「今日、私たちの家族にもこんなことが起こるかな、そんな点を心がけてみようかな」という気分になるのではないだろうか。

●担当パーソナリティについて

・夫婦の雰囲気良く出ており、二人の世界に冒頭から入りやすく、好感は持つことができた。しかし、あまりにも提供される「場」の範囲が狭く、聴き疲れする話し方も目立つ。本人たちも「間延び」していることに気付いている雰囲気もあった。しかし青木慶則氏の軽妙なトーク、声調が救ってくれることもあり、絶妙な同氏の個性で番組の流れが修正されている。

加藤委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

番組の HP には「家族ならではの視点でお届けします。」「番組名の「ハットピン」は、帽子が風で飛ばされないように繋ぎ止める装身具のこと。家族は会話することで幸せを繋ぎ止めます」とあるが、その通りの番組内容だと感じた。Quinka,with a Yawn さんと青木慶則さんの穏やかな雰囲気も、番組タイトルや意図とマッチしていると思う。またトークの内容も、一見、たわいもないものに聞こえながら、子育て世代には日々体験している内容であり、またどこかユーモラスに話してくれる話し方も相まって、とても共感できるものだった。またのんびりしながらも、アーティストならではの音楽への見方や紹介もあり、番組の面白さにつながっていると感じた。

●担当パーソナリティについて

青木慶則さん、Quinka,with a Yawn さん、ともに落ち着きがあって、とても聞きやすい。ゆったりとした喋り方で日曜日の早朝にはふさわしいと思う。お二人の掛け合いも絶妙で、真面目に話している流れの中で、軽くツッコミが入ったりする(コロナなので青木さんが在宅しているため、お昼ご飯を悩む、といった点)など、のんびりしているように見えて、かなりメリハリがあるトークで面白いと個人的には感じた。

また繰り返すようにアーティストならではの音楽への見方や捉え方の面白さがあり、家庭トークだけではなく、音楽番組としても興味深かったと感じた。

●良かったと感じた点と、改善の必要があったと感じた点

番組のコンセプトと内容がとてもマッチしており、また曜日・時間帯を考えると、番組としてほぼ完成していると感じた。またトークも「家族ならではの視点」というテーマ通りであり、子供を持つ世代のリスナーとの共感度も高いのではないかと。そのため、現在の番組コンセプト、また曜日・時間帯であれば、現状の番組そのものに改善の必要性はあまり感じなかった。一点あるとすれば、今後も続けていく中で、家族をテーマにしたトークのた

め、回数を重ねると「トーク内容」が続くのかという点が気になった。とはいえ、そこは現場の方も考えられ、また回数を重ねるごとに新しい切り口も見つかると思うので、現時点で難点だとは思わない(実際に別の放送回ではアンケートなど工夫もされている)。

またお二人の音楽への視点や話の内容が面白かったので、お二人の音楽話を中心としたコーナーなどがあったとしても良いと感じた。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

上記で書いたように、お二人のアーティストとしての側面が、もう少し前面に出るようなコーナーがあっても良いと感じた。例えば、お二人の特徴を生かして、家族の時間の過ごし方に合う音楽、といったものも考えられるのではないかと。

服部委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

ご夫婦ならではの「あうん」の呼吸によるトークで、日常の出来事が淡々と、時には明るく語られていく。早朝番組としてうるさい、聞きづらいトークは合わないでしょうから、全体的に耳に優しい時間として、トークの内容ではなく、リスナーの朝の時間を邪魔しない雰囲気を作っているのでしょう。曲をしっかり流しているの、朝起きがけ何かをしながら聴くには適していると思います。

●担当パーソナリティについて

ご夫婦が、ふだんお互いが尊重し合って生活されている感じが伝わってきます。ホッと温かい雰囲気がかもしだされていて、好感が持てました。キンカさんが、自分のことを「わし」というのが少々気になりましたが、キャラなのでしょう。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

今回では、リスナーからのメッセージの紹介がほとんどなかったのですが、もう少しリスナーとのやり取りなどがあっても良かったと思いました。プレイリストにアップされていくのは良いですね。もう1度ゆっくり聞きたい時などには、利用できます。・2人ともアーティストなので、きっとファンもいると思いますが、ファン以外のリスナーには少し間延びした感じに聞こえてしまう可能性もあるかと。

山本委員

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

HPの番組紹介に「家族ならではの視点でお届けします」とありますが、その表現はぴったりと当てはまる気がしました。

●担当パーソナリティについて

息の合った掛け合いで番組が進んでいくところがとても心地よく感じました。日常のルーティーンをゆったりと語ることで55分の番組をもたせられるお二人が、他の回ではどのような話をされているのか聴いてみたくなりました。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

ミュージシャンのお二人だからこそその会話がところどころにあり楽しかったです。

曲紹介では、なぜこの曲を選んだのかの説明があり、曲終わりにもその曲に対する思い入れなどを語っていてよかったですと思います。息子さんがミュージシャンのご両親の良い影響を受けて育っている様子が伝わってきました。自分でレコードプレーヤーを操作したり、曲に合わせて父と戦ったり、かわいらしい姿が想像できました。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

他の回を聴いていないのと、今回は自粛生活中の話だったからなのかもしれませんが、青木さんが家事をほぼせず、すべてキンカさん任せのような印象が残りました。10~11時まで寝ている青木さんが、キンカさんと息子さんが寝静まった頃から深夜までガッツリ4~5時間仕事をしていると強調されていたのが少し気になったので、青木さんの家事の話も聴いてみたい気がしました。

木宮委員長

●番組コンセプトと実際の番組の兼ね合いについて

今回の放送は特にパーソナルな話題が多かったと思います。そのため、夫婦で担当していることもあって、誰に宛てて話しているのかが分からなく、リスナーが置き去りにされているような印象を受けました。

パーソナリティ 2 人の場合、お互いに向けて話すことが普通かと思いますが、今回は夫婦の日常という本来共有化していることを話し合うことになり、パートナーに向けて話しているのか、リスナーに向けて話しているのかが分からなく、不思議な違和感を感じました。

家族ならではの視点が番組のコンセプトですが、放送を私物化しているように受け止められる危険性もあります。お互いの呼び方、子供の呼び方、キンカさんの自分の呼び方(わし)についても、家族観が強すぎてあまり好感は持てません。音楽という共通項を語るのはいいと思うのですが、あまりに家族の話がメインになるのはどうでしょうか。今回のテーマが特にそのような傾向が強くなったのかと思いますが、各回のテーマの設定が重要になりますね。

●担当パーソナリティについて

2 人ともゆったりとした話し方で、日曜日の早朝の雰囲気には合っていると思われます。この話し方やペースについては好き嫌いもあると思いますが、アーティスト番組なのでそれが個性としてプラス面になるのではないのでしょうか。

●良かったと感じた点と、改善の必要があると感じた点

アーティスト番組ということもあり、自分たちの曲以外の選曲については面白く感じました。

また、note と連動して情報発信していく方法は大変良いと思います。特に固定化したコーナーがなく約 1 時間トークだけでつなぐのは大変ではないのでしょうか。今後マンネリ化していくことが危惧されます。

●具体的な提案やアドバイスがあればお願いします。

リスナーが参加できるコーナーや、アーティスト番組らしく生歌のコーナーなどはどうでしょうか。

また、家族としての視点を活かすのであれば、リスナーからの子育てや夫婦間の悩み等について本音で語るようなコーナーもありかと思います。

●その他、質問など

アーティストの日常を感じることができるのは、ファンにとっては嬉しいことかもしれませんが。2 人のファン向けの番組なのか、ターゲットとなるリスナーはどのように考えているのでしょうか？

会社サイド 前回(第 361)回では川崎の新たな一面が見える点に評価を頂いた一方、番組コンセプトが不透明な点などについてご指摘頂きました。今後の番組作りに反映させ、改善するようにいたします。

次回開催日 令和 2 年 7 月 7 日 (火) 11:00~12:30 を予定

以上

番組審議会委員長

木 宮 敬 信